わる女ちとしれ出しとよみけるがわるべきの
むそうよりて学ぶるうちやそうにおりて口くり
いひつくる何りのわさふかゆへもなれ車ともがまあり
めるるゆしとなれまとく且ひさく再ゆへきロゆなるとそ
あつうまくと思ふあうじあるきあ絡のすくるが
かのとくにあて来ゆく代の方へさへ大車とはえ
そうれるまきくがうの宣に見るくへきなるねぞ好の
うそにかさしとと就まりへて おきな源氏とあれうか乃
あさしとがよそおりんよりいろ月のかたにに是と見習ひ
給うんよそめるやさしく且望おとなし敬くもまさしの
たよりふきなるへきゆめしれし

立園

おされけんし一

きりはな
たちきく
うけせん
ゆつるな
わかれしされ
きふ浴れるな
きすれ契
花乃えん
あつひ

上

大上天皇（きりつぼみかとこ）
前坊 — 秋好中宮（母ハ六条ノ御所）
桃園式部卿 — 槿斎院
三宮
女五文

朱雀院（御母ニてきてん大君）
今上
女一
女二（柏木ノ御ハ）
女三
女四

春宮（御母ハ此中文）
式部卿 同
白兵卿 同
若君
常陸宮
中務文（母明石）
一品文 同
女二宮

六條院（御母ハ六条ノ御所）
夕霧左大臣（御母ハ六条ノ御所）
薫大将（御母女三）
明石中宮
童兵卿
童宮
同
宮御
四文
御宮

右馬ノ勢
中納言
右大弁
侍従宰相
源宰相中将
新中将
四位少将
童
長宮女御
女君五人

大臣
六條御休所

八宮（宮法のうえそくの文）
- 大君
- 中君
- 浮舟

式部宮
- 仍法
- 宮君

冷泉院（九母方つか）
- 一宮
- 女一
- 女二

一品文
女二文
兼敷院

●光帝
- 式部宮
- 薄雲女院
- 源氏文
- 源大納言 君君
- 中将
- 仍法
- 民部卿
- 髪黒室
- 葉上
- 冷泉院女御

●接政大政大臣（左右臣れののこ）
- 致仕大政大臣（以中将ののこ）
- 左中辨
- 兼大納言
- 吉宮大夫
- 蔡上

- 柏木權大納言
- 西梅右大臣
- 左馬寄
- 兼宰相
- 頭中将
- 義人母将
- 八郎君
- 女子四人

●石大臣
- 髪黒大政大臣
- 頭中将
- 兼香殿女御

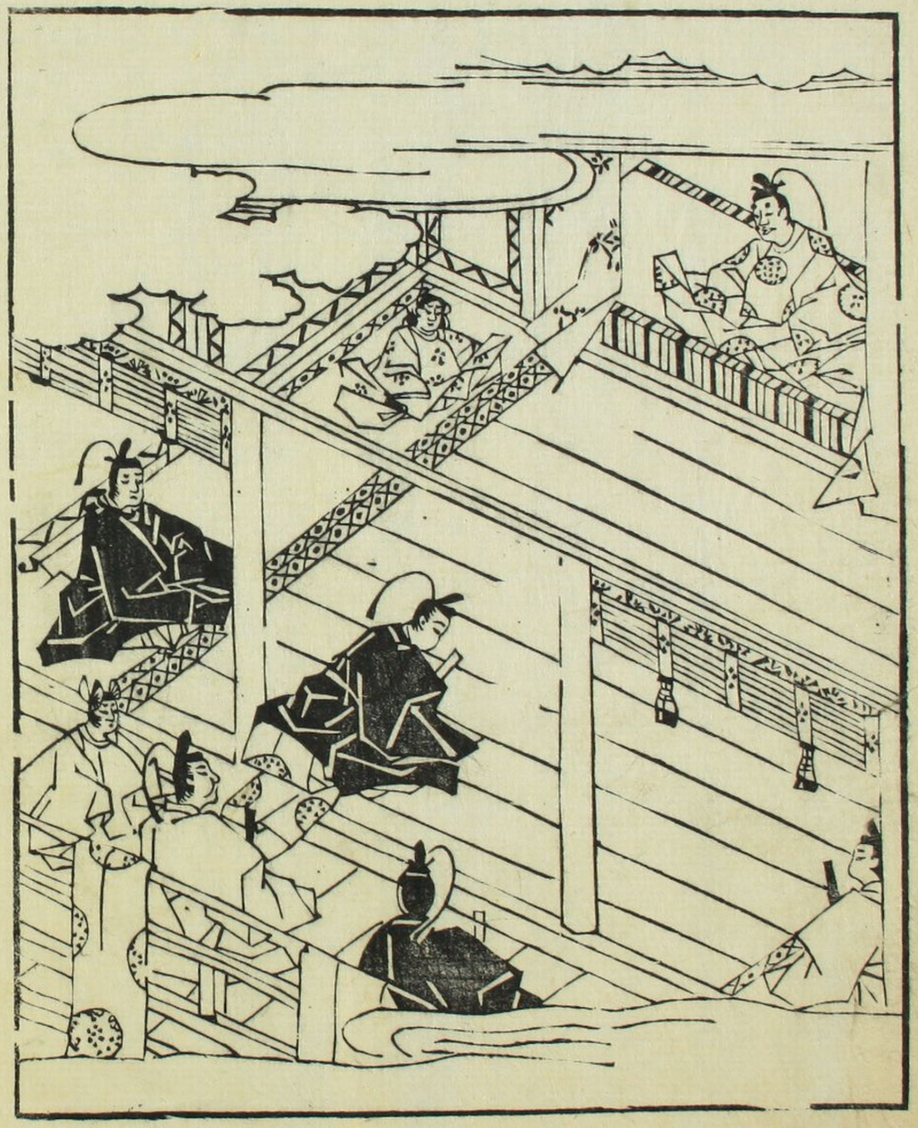
●權中納言
- 左馬佐 小君
- 宣蟬君

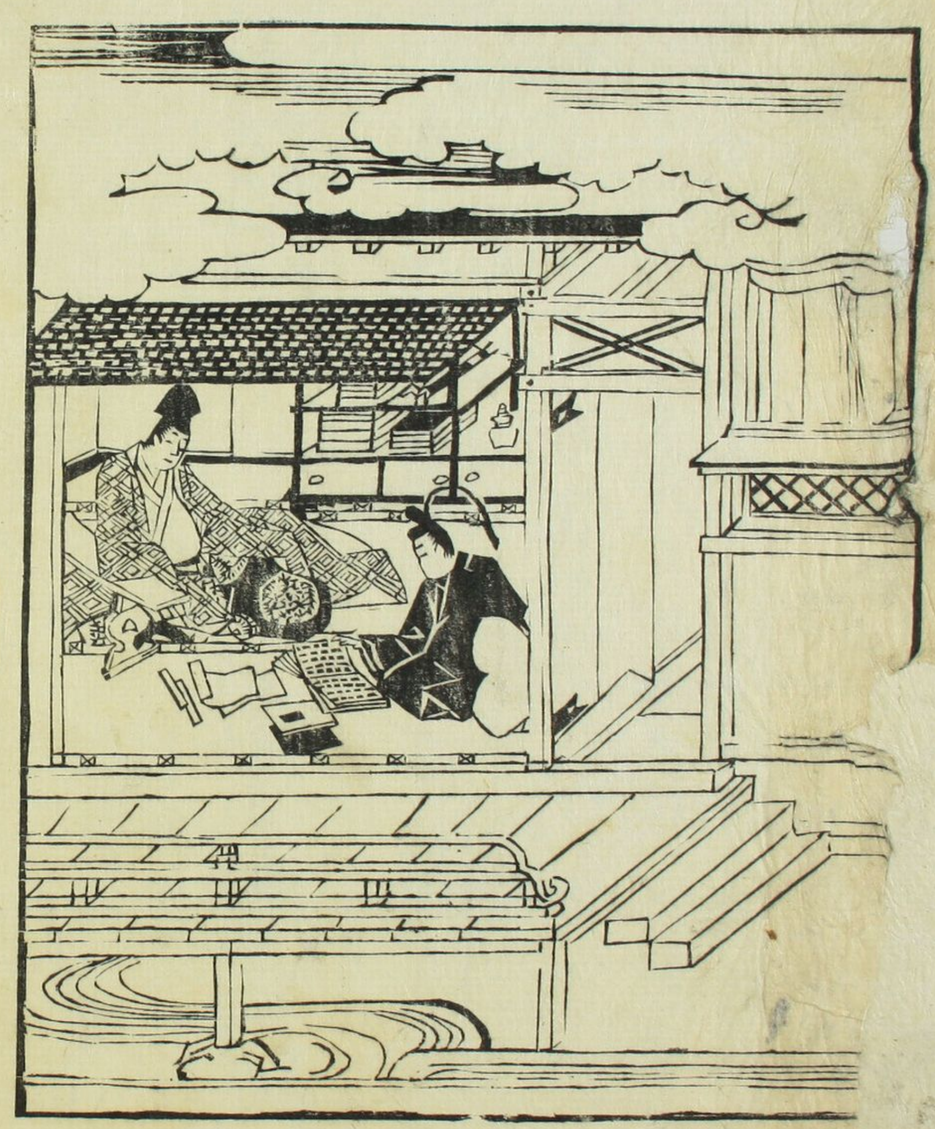
大臣 明石入道 明石上

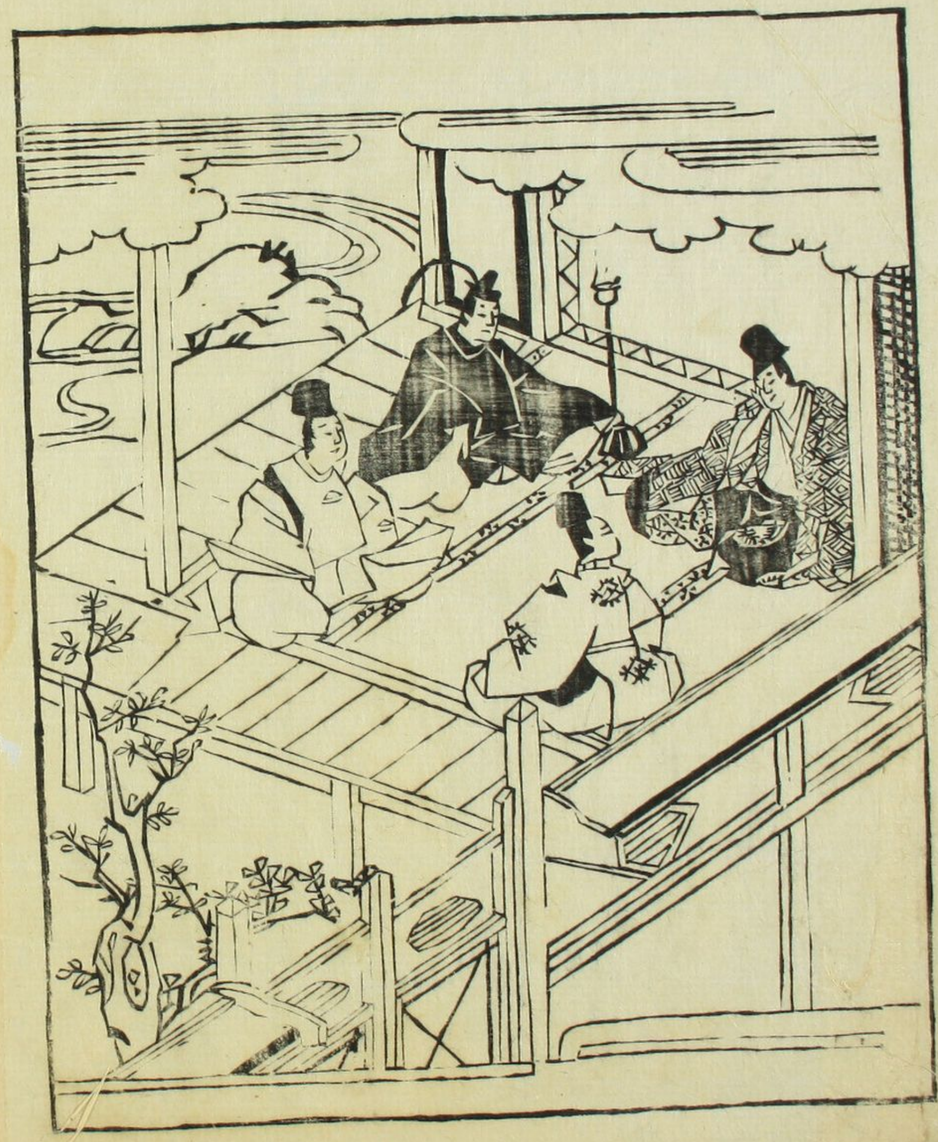
●接察大納言
- 雲林院律師
- 桐壺更衣

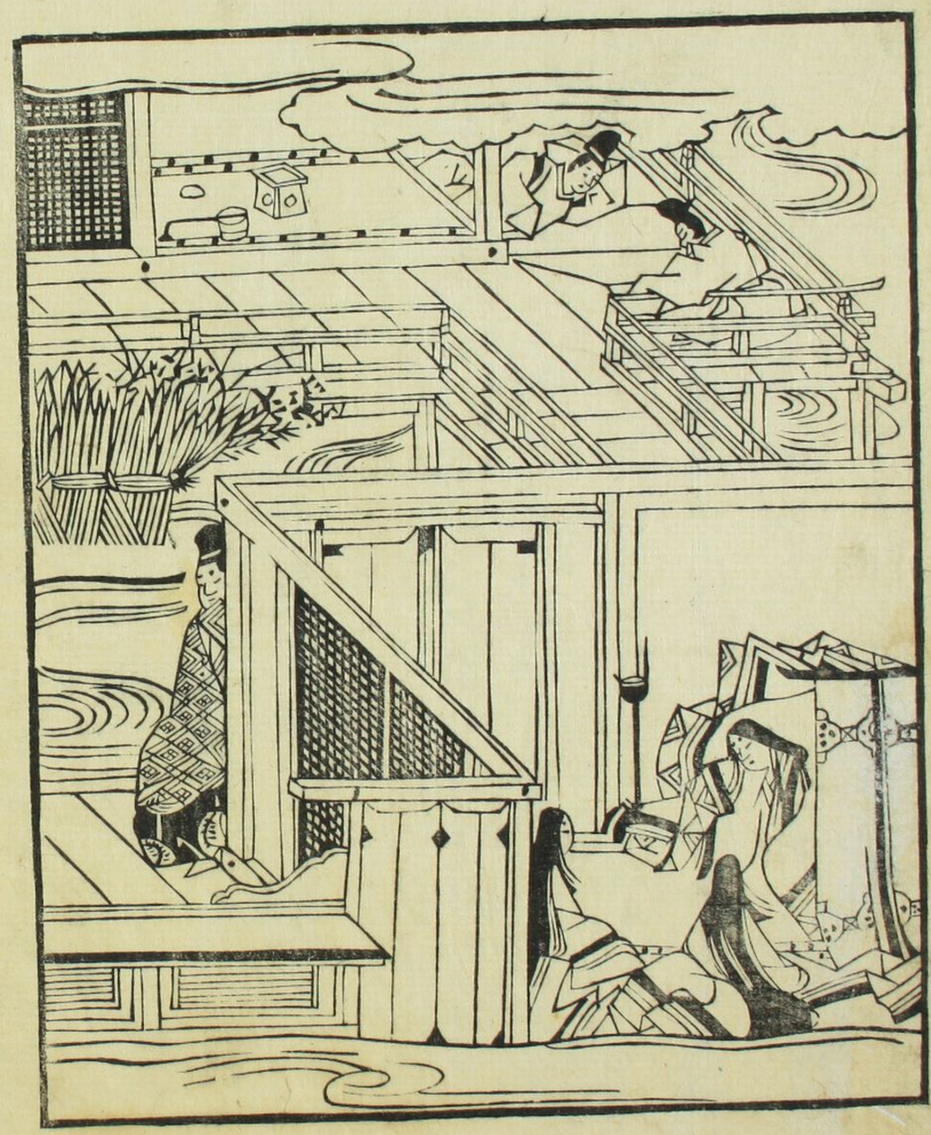
きりはなす

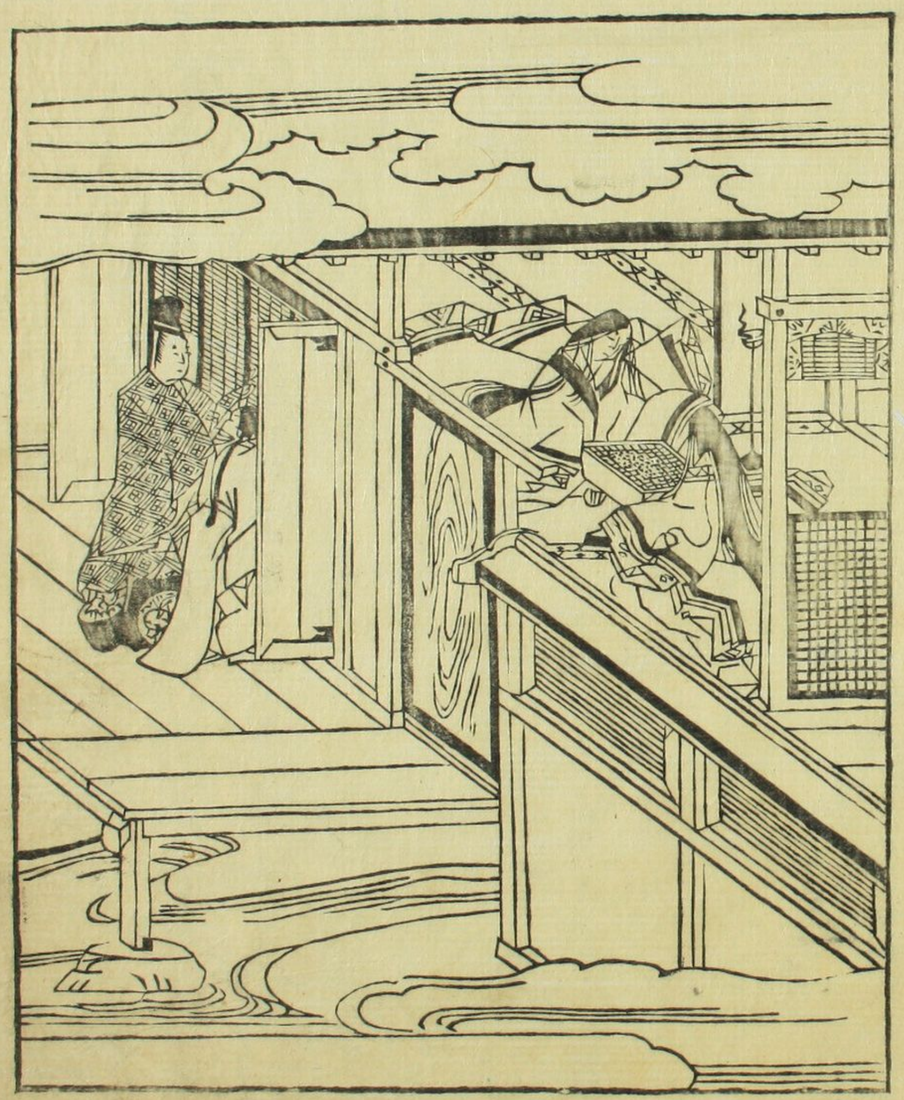
いつまの御時にか女御かゝるあまたさふらひ給けり
中にきりつぼのかゝるとそ見めかたらすぐれ
たるあり此かゝる御はてゝあひあるによりそ
世の人きりはなのみかどゝ申たてまつるなり
あまたの女御更衣たちにくみそねみ
給さゆへ乃御みやづかへ給ふにつけて人の
とりまゝてはしやづらひ也里は日にそひて物心
ぼそく里がちにまかりて御まゝにやつかせ
えしなるなみかどいとゞあはれとおもひ
人のそしりともはゞかりも給ひて御そびのあり

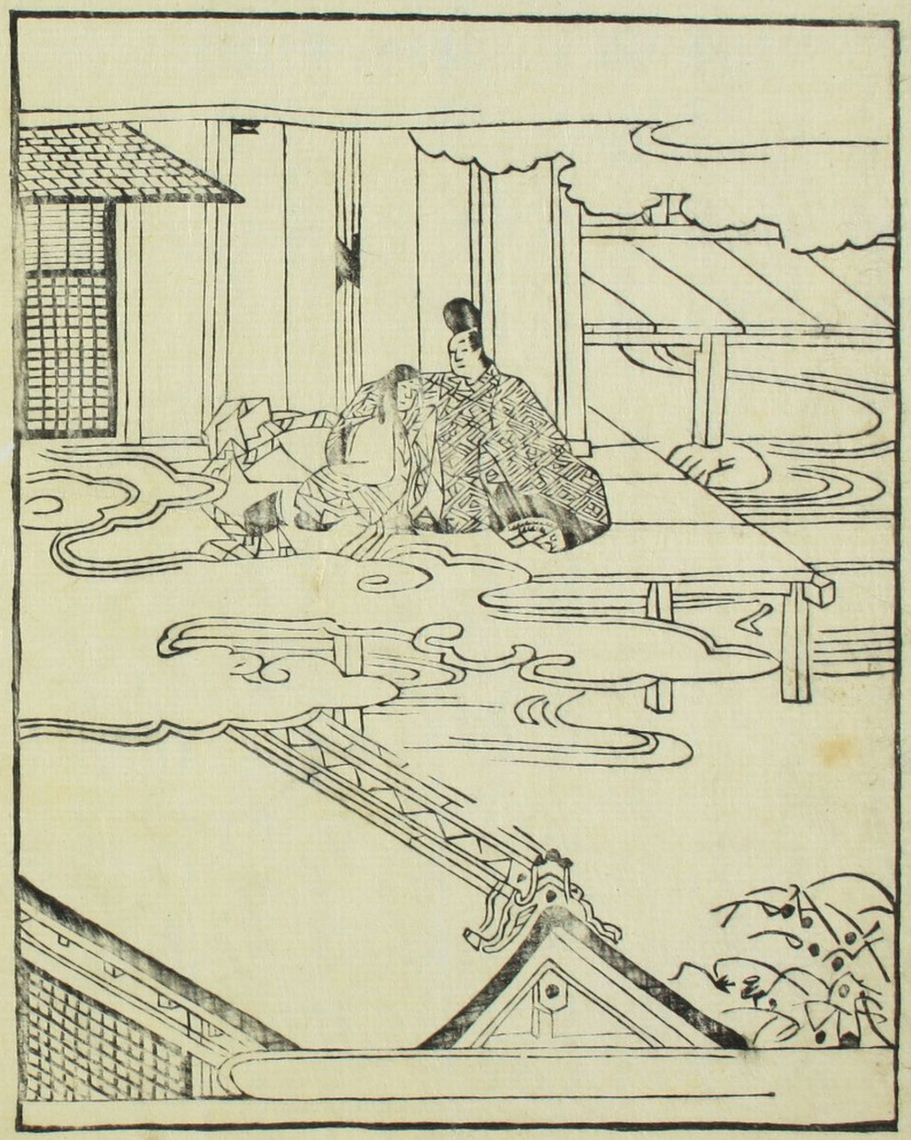


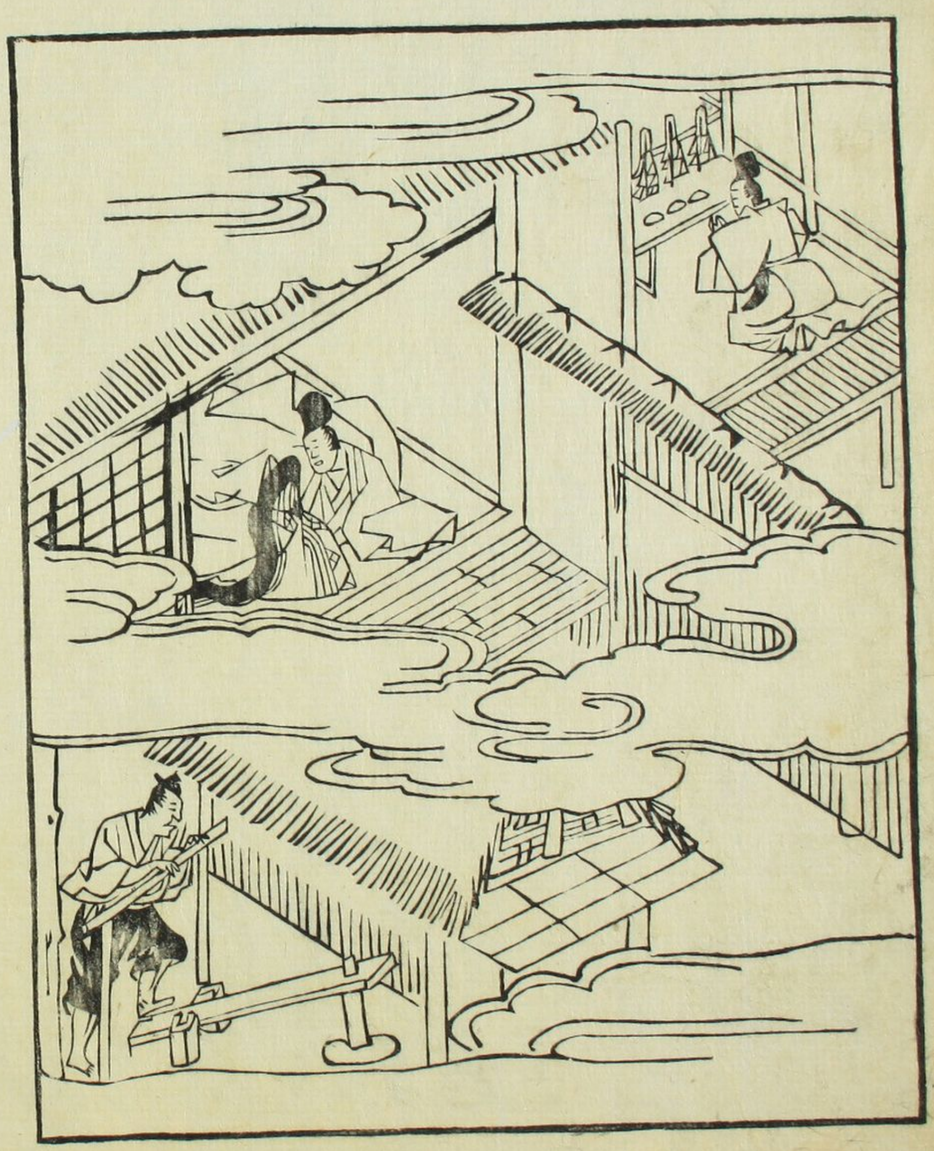


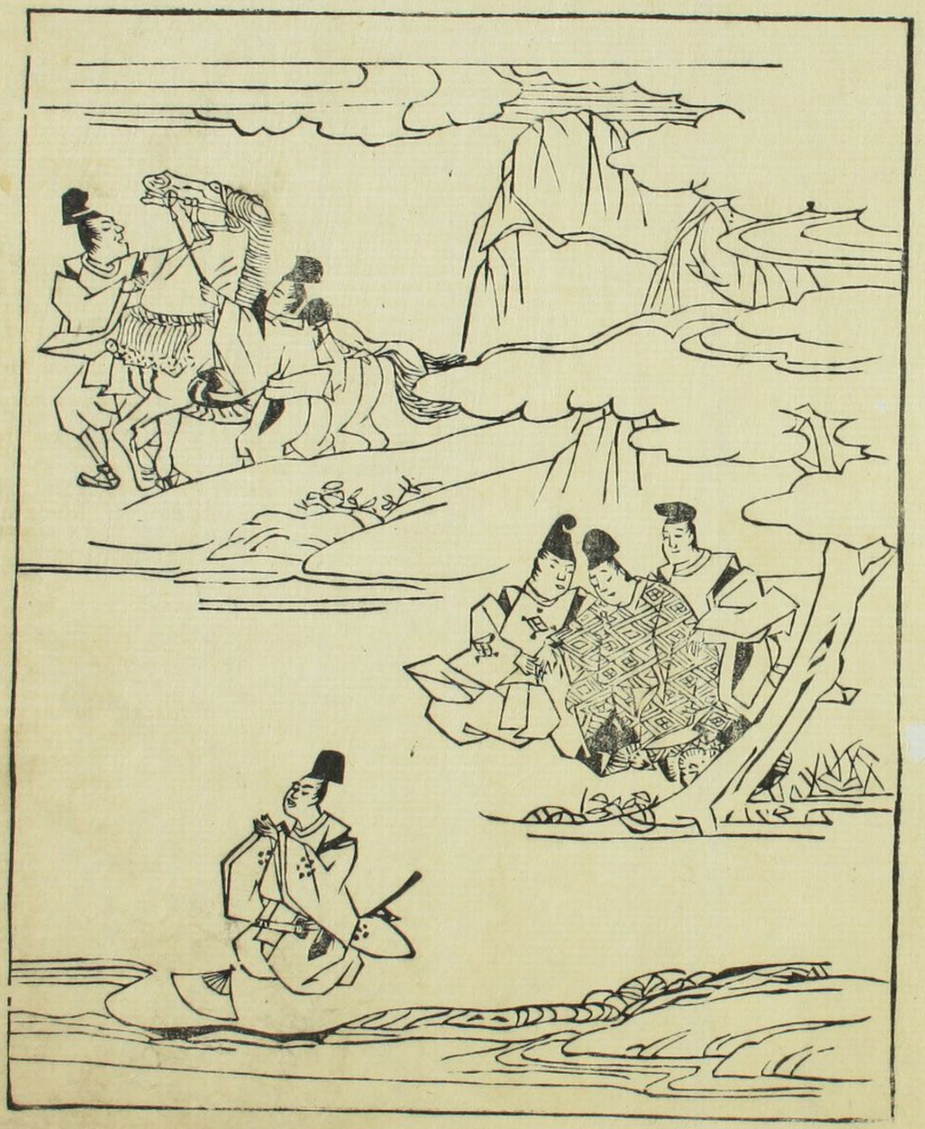


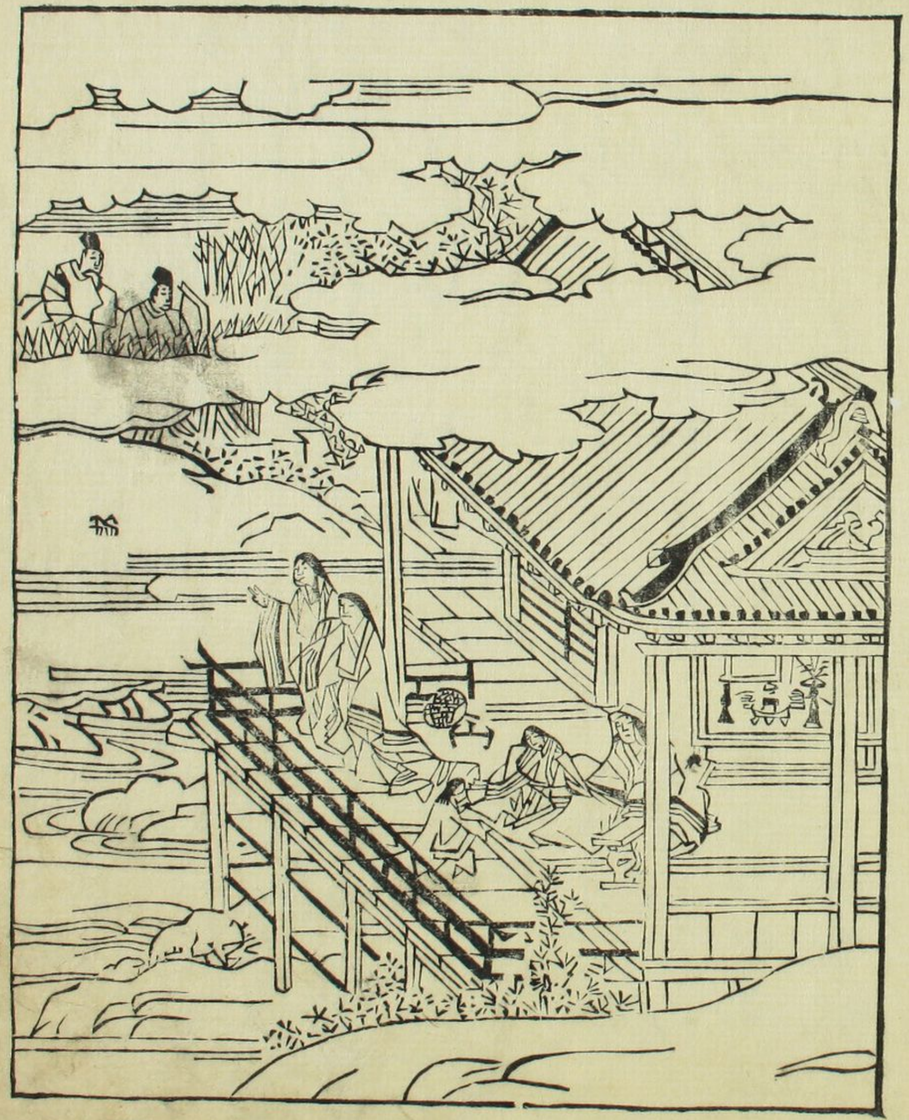


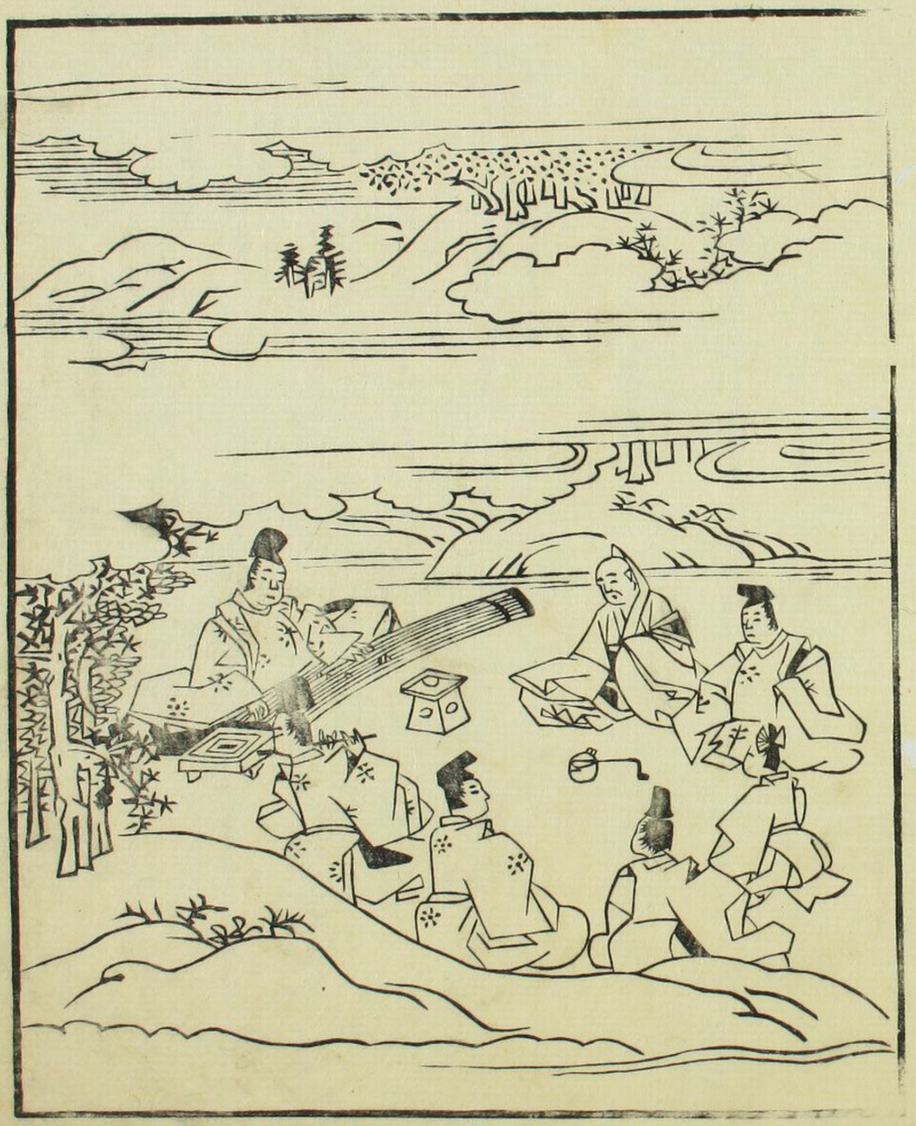


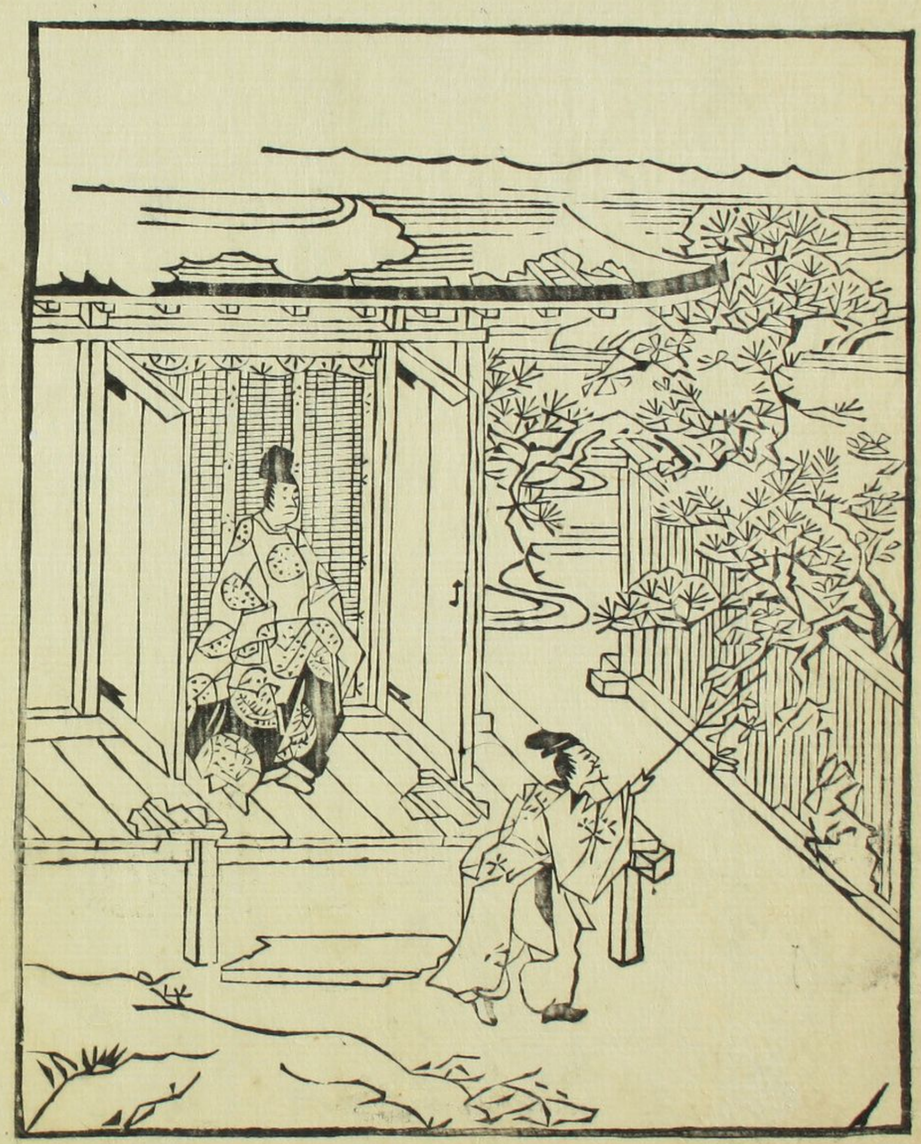


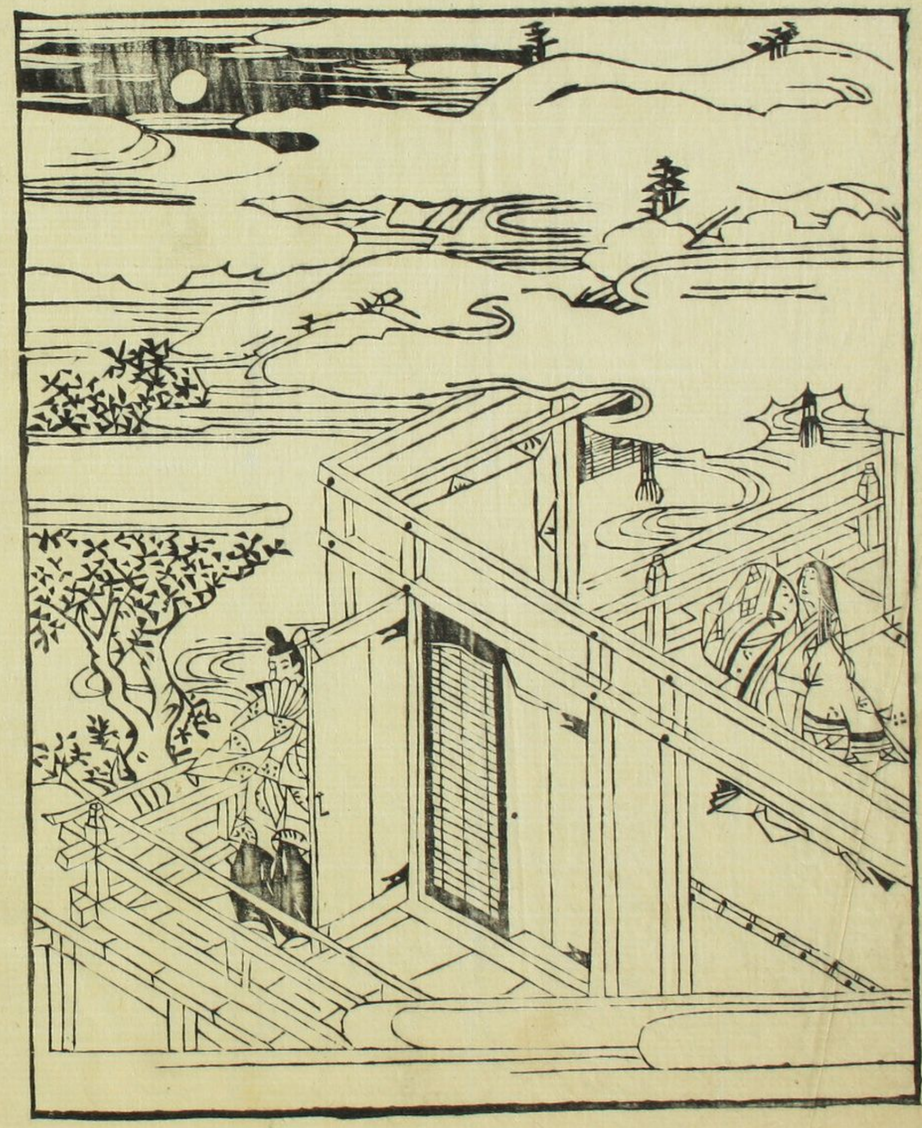


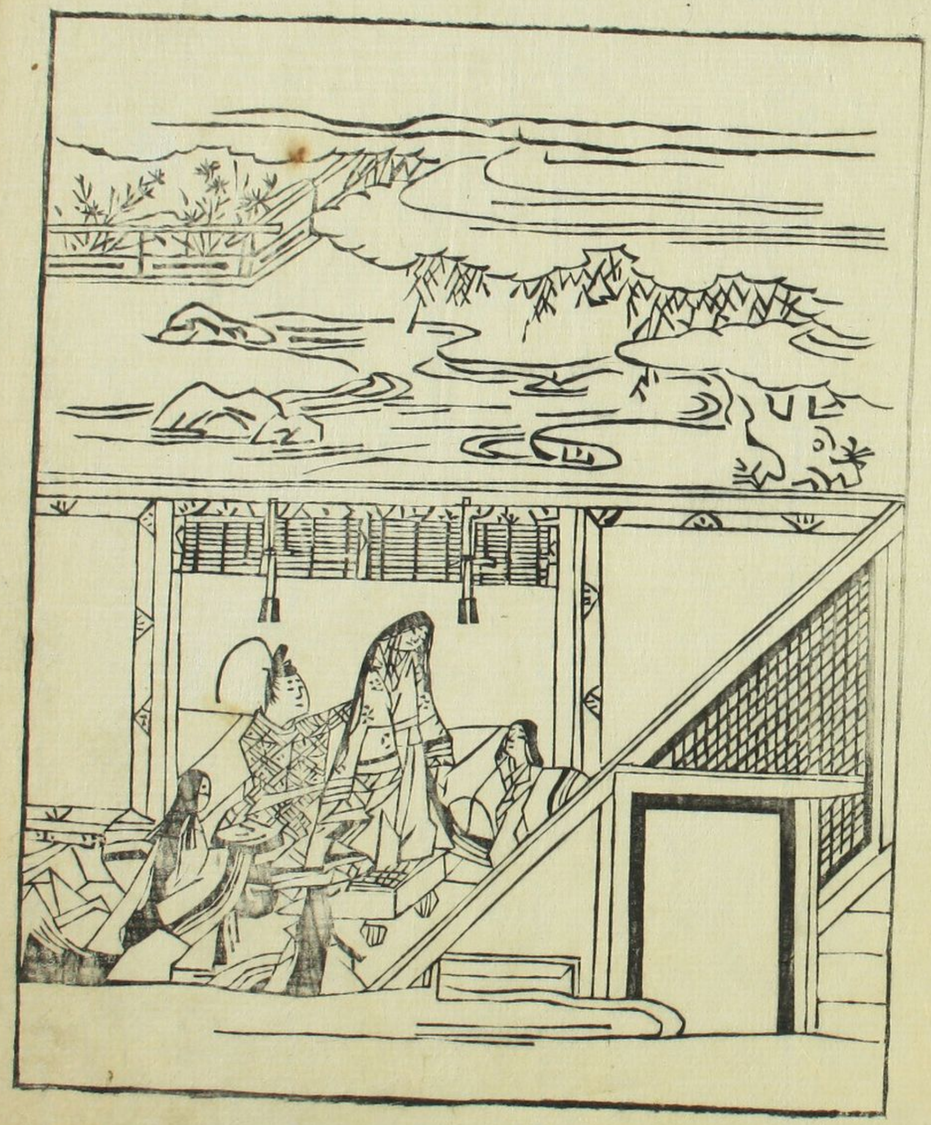












さすがにたれしらるのしろもなく
きこよさりゐのこれからゐまいらせらこれこそ
とかしてけりらゐあまの雲に氣をせよとの
お仙言はあられぬもかなしけなくもまだ所なるを
なり年なりて院内きなにまいりなし
それより大きの人氣なるべきにあらしに
年とともなりさきて 源
おまえこしけゐあるこれいろごゝ物も
きそにたまへぐのゐるしらする
おそらし紀年とともいちをゐるものに
かりゐる人乃なるこしたりなり

波津